

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03471

研究課題名(和文) 東アジア三国(日中韓)関係史料の研究資源共有化と実践的交流の研究

研究課題名(英文) Research on resource sharing and practical exchange of historical materials related to Japan, China and Korea

研究代表者

榎原 雅治 (Ebara, Masaharu)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：40160379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：A.日中韓国際学術会議第5回会議を2016年11月に東京で開催し、本研究課題の3つの重点テーマをふまえて日中韓三国からの報告を立てた。その報告を収めた『アジア歴史資料の編纂と研究資源化』を出版した。第6回会議は2018年10月、中国社会科学院近代史研究所主催で北京において開催され、本研究課題から3名が報告した。

B.東アジア三国関係史料の研究資源化の取組としては、ロシア所在史料の目録を刊行した。中世・近世日本と朝鮮の外交に関する基本史料である東京大学史料編纂所蔵「本邦朝鮮往復書」および対馬宗家史料のうちの「江戸藩邸毎日記」をデジタルアーカイブ化し、ウェブ公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

計2回の国際会議をとおして三カ国における歴史史料の成り立ち、保存、デジタルアーカイブ化の構想と活用などにおける共通性と相違についての共通認識をもつことできた。特にモノとして保存とデジタル化については参考になる例が紹介され、各国における歴史編纂事業の今後のあり方に生かされることになると考えられる。本課題においてデジタル化した史料は、いずれも日本・中国・韓国の歴史解明に共通して有益なものである。特にロシア史料は、帝政期ロシアの大蔵省関係の文書を中心としたもので、三カ国の近代初期研究にとって貴重な史料である。目録刊行の形でこれを公開することができたことの学術的・社会的意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：We held the 5th International Conference of the national institutes of history of Japan, China and Korea in Nov. 2016 in Tokyo, and each institute presented reports based on three chief themes. We published "The Compilation and Digitization of Asian Historical Materials" containing those reports. The 6th conference was held in Beijing in Oct. 2018, sponsored by the Institute of Modern History(China), and we presented three reports at that conference. We have released online the results of two efforts to produce digital resources for research on relations between Japan, China and Korea: (1) Published a list of historical materials held at Russian Historical Archives related to East Asia. (2) Digital archiving of the "Exchanged Letters between Japan and Korea governments in Edo era" and "Diaries of Edo House of So family, the Daimyo of Tsushima island", owned by HI, which are foundational historical materials concerning diplomacy between Japan and Korea during pre-modern periods.

研究分野：日本史

キーワード：東アジア 対外交流 日本史 データアーカイブ 歴史編纂

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東アジアにおける史料調査・研究事業は、現地の研究者や研究機関との協力関係にもとづいて実施されてきた。その一環として、史料編纂所では2002年に、韓国国史編纂委員会・中国社会科学院近代史研究所との間で研究交流協定を締結し、日中韓三国の史料の研究・編纂に関する情報と技術を共有し、各国の歴史に対する理解と協力を増進するために、各国の幹事機関が順に主催機関となり国際学術会議(研究集会)を企画するものとした。国史編纂委員会は文部次官相当を組織の長(委員長)とする韓国の政府直轄機関、近代史研究所は中国の国家的シンクタンクである中国社会科学院内の研究組織であり、ともに両国を代表する歴史研究機関である。これまで4回の国際研究集会が実施され、2016年には史料編纂所が中心となり国際研究集会を開催することが予定されている。さらに、2018年には次回が中国(北京)で開催される予定である。

2. 研究の目的

東アジア三国(日中韓)の歴史編纂研究をめぐる国際研究集会の開催に向け、3つの重点テーマ、王家・貴族の文庫形成と王朝史編纂の比較研究、歴史情報の研究資源化研究、海外所在史料の調査研究、に沿った研究を推進する。さらに関連報告を組織して「アジア歴史資料の編纂と研究資源化」を全体テーマとする2回の国際研究集会を成功させる。この国際研究集会を結節点として、対馬藩宗家史料をはじめ、日中韓の対外交流にかかわる史料群のデジタルアーカイブ化を推進し、東アジア三国にかかわる帝政ロシアの史料群の目録情報研究など、東アジア三国関係史料の研究資源化と公開・共有化を進めることによって、日中韓における歴史編纂研究の豊かで実質的な研究交流を実現する。

3. 研究の方法

日中韓3ヶ国の機関の研究交流協定に基づき、各機関の研究協力を得、2016年度(東京)と2018年度(北京)に開催する二つの国際研究集会において、3つの重点テーマに基づく研究報告を組織して参会し、豊かで実質的な研究交流を実現する。各テーマに取り組む研究と研究プロジェクトをあらかじめ研究体制の中に組織し、予備的な研究会を重ねて、国際研究集会での発表と議論を準備する。また東京大学史料編纂所の歴史情報処理システム上での日中韓共通の歴史資料の画像公開や目録情報の作成、公開につとめ、歴史資料の研究資源化と共有化を推進する。二つの国際研究集会と最終年度の総括集会を成功させ、研究の結節点とする。

4. 研究成果

A.日中韓国際学術会議国際学術会議(理事機関:東京大学史料編纂所・韓国国史編纂委員会・中国社会科学院近代史研究所)第5回会議を2016年11月6・7日、東京大学史料編纂所主催・日本学士院共催として開催した。本研究課題の3つの重点テーマをふまえて、日中韓三か国からの報告を立てた(報告者15名。会場は東京大学伊藤国際学術研究センター。報告、議論は同時通訳によった)。この会議の報告を収めた『アジア歴史資料の編纂と研究資源化』(編集・発行:東京大学史料編纂所、729ページ)を出版した。各報告はすべて日本語、中国語、韓国語の三カ国語で掲載されている。また第6回会議を2018年10月15日・16日に、中国社会科学院近代史研究所主催で同研究所において開催された。本研究課題からは、代表者榎原、研究分担者深澤秋人、須田牧子の3名を含む5名の日本

人研究者が報告した。中国、韓国からは各5人の報告者が立ち、東アジアの交渉に関わる史料について報告と討議が行われた。2回の会議を通して、三カ国間の歴史資料の成り立ち、保管状況、デジタルアーカイブ化の現状に関する共通性と相違点について、共通認識をもつことができた。第7回会議は2020年5月に韓国・プサンで、「東アジア歴史史料編纂の伝統と現代化」を共通テーマとして開催することで合意し、各国5本の報告準備を開始したが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催は2021年度5月開催に延期されることとなっている。

B.東アジア三国関係史料の研究資源化と公開・共有化の取り組みとして、日中韓の対外交流にかかわる史料群のデジタルアーカイブ化を推進した。

東アジア三国に共通して関係するロシア所在史料の目録を刊行した。基盤研究S「マルチアーカイブアル的手法による在外日本関係史料の調査と研究資源化の研究」(研究代表者:保谷徹、H26～H30)と連携してロシア国立歴史文書館に委託して共同作成した2件の目録(第1目録(1894～1914):944項目/第2目録(1902～1915):1201項目)を合綴し、それぞれに地名・人名索引を作成して、東京大学史料編纂所研究成果報告書2019-5『ロシア国立歴史文書館所蔵日本・中国・韓国/朝鮮関係史料解説目録』(東京大学史料編纂所編、A4版288頁)として刊行した。いずれも帝政ロシアの大蔵省文書を中心に、日本・中国・韓国など極東に関係する日清・日露戦争期～革命前の史料群の目録であり、帝政ロシアの史料情報として貴重な成果である。日中韓三か国の研究機関の間で史料目録情報の共有化をはかり、ロシア史料調査の研究交流の途をさぐっていききたい。

中世・近世日本と朝鮮の外交に関する基本史料である東京大学史料編纂所所蔵「本邦朝鮮往復書」(全101冊)および対馬宗家史料(全3000冊)のうちの「江戸藩邸毎日記」をデジタルアーカイブ化し、ウェブ公開に供した。これは、東アジア三国(日中韓)関係史料の研究資源化と公開・共有化の実現である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Masaharu Ebara, Akihito Nishiyama, Taisuke Murata, Reiko Sugimori	4. 巻 15-2
2. 論文標題 Reserch on Pre-modern Earthquakes Based on Fusion of Humanities and Sciences	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of disaster Reserch	6. 最初と最後の頁 76-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.20965/jdr.2020.p0076	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 1
2. 論文標題 中世日本の往復外交文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書の様式と国際比較	6. 最初と最後の頁 302-327
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 3
2. 論文標題 日朝講和交渉過程と偵探使	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共存の人文学	6. 最初と最後の頁 141-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 1
2. 論文標題 日本と韓国の署名・花押比較（翻訳）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書の様式と国際比較	6. 最初と最後の頁 162-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 1
2. 論文標題 朝鮮時代における私人間の契約文書（翻訳）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書の様式と国際比較	6. 最初と最後の頁 181-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田牧子	4. 巻 30
2. 論文標題 天龍寺妙智院所蔵「大明譜」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 196-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村井章介	4. 巻 20
2. 論文標題 古琉球における「女」の領域	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立正大学人文科学研究所年報別冊	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 33
2. 論文標題 日本古代皇后制度的形成與國禮制	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古今論衡	6. 最初と最後の頁 35-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 1
2. 論文標題 武寧王妃墓誌の「改葬」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 論集 葬送・墓・石塔	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木裕行	4. 巻 989
2. 論文標題 幕藩間交渉における非制度的関係の位置づけ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 96-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田牧子	4. 巻 1
2. 論文標題 中世後期の大蔵経輸入の概観	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 版経東漸	6. 最初と最後の頁 72-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎原雅治	4. 巻 818
2. 論文標題 連鎖する開発と災害	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 37-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村井 章介	4. 巻 81
2. 論文標題 世界史としての地域史 - 古琉球史は何たっておもしろい	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮城歴史科学研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村井 章介	4. 巻 1
2. 論文標題 Kikaigashima is Not So Far Away After All: Japan's Southwestern Borderland (Translated by Kristopher Reeves)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studies in Japanese Literature and Culture	6. 最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深澤 秋人	4. 巻 31
2. 論文標題 廃藩置県に関する通知 鹿児島琉球館への伝達をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 黎明館調査研究報告 (鹿児島県歴史資料センター黎明館)	6. 最初と最後の頁 35-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 下
2. 論文標題 《慶元条法事類》与《天聖令》—唐令復原的新的可能性—	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴代令考	6. 最初と最後の頁 681-704
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 4
2. 論文標題 翻訳 尹善泰「新羅中代末～下代初の地方社会と仏教信仰結社」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究叢書	6. 最初と最後の頁 95-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田牧子 (共著)	4. 巻 956
2. 論文標題 世界的視野で中学校歴史教科書の前近代叙述を検討する	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田牧子 (共著)	4. 巻 176
2. 論文標題 東京大学史料編纂所謄写本「黒岡帯刀氏所蔵文書」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 九州史学	6. 最初と最後の頁 26-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田牧子	4. 巻 258
2. 論文標題 海禁政策と倭寇	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史と地理 日本史の研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 37
2. 論文標題 中世前期の対馬と貿易陶磁	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 貿易陶磁研究	6. 最初と最後の頁 3-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒木和憲	4. 巻 10
2. 論文標題 粉粧粉青沙器の日本への流通経路に関する一試論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 海洋文化財 (大韓民国国立海洋文化財研究所)	6. 最初と最後の頁 99-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深澤秋人	4. 巻 19
2. 論文標題 歴代宝案から見る琉球史 中	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴代宝案編集参考資料	6. 最初と最後の頁 73-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深澤秋人	4. 巻 219
2. 論文標題 鹿児島琉球館における「役所」の機能 尚家文書三四一号を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『国史学』第219号 (国史学会、國學院大學文学部史学科気付)	6. 最初と最後の頁 75~117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 21
2. 論文標題 殯宮の立地と葬地 艇止山遺跡の評価をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『東京大学日本史学研究室紀要』21号	6. 最初と最後の頁 1～18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子(翻訳)	4. 巻 18
2. 論文標題 李漢祥(稲田奈津子 訳・三上喜孝 解説)「発掘から解釈まで 艇止山遺跡の事例」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『山形大学歴史・地理・人類学論集』18号	6. 最初と最後の頁 25～38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 74
2. 論文標題 文献案内 鈴木景二「史跡隼人塚とその石造物」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信』74号	6. 最初と最後の頁 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 820
2. 論文標題 書評と紹介 木村法光『正倉院宝物と古代の技』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 88～90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 68-2
2. 論文標題 書評 門田誠一著『東アジア古代金石文研究』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『古代文化』第68巻第2号	6. 最初と最後の頁 137～139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田奈津子	4. 巻 75
2. 論文標題 文献案内 (韓国)国立中央博物館『国立中央博物館所蔵ガラス乾板』(図録)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信』75号	6. 最初と最後の頁 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計39件 (うち招待講演 24件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 榎原雅治
2. 発表標題 地震研究のための歴史史料の情報化とネットワーク構築をめざして
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「デジタル化する歴史災害」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎原雅治
2. 発表標題 The way to Supernatural Powers(Shugendo) in Medieval Japan
3. 学会等名 "New trend in the Study of Medieval Japanese Documents" Symposium (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村井章介
2. 発表標題 種子島から見た中世日本、そして世界
3. 学会等名 東京学芸大学史学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村井章介
2. 発表標題 15世紀、三浦を通じた共存
3. 学会等名 韓日国際学術大会兼北島万次先生追慕会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村井章介
2. 発表標題 近世初頭、対馬・朝鮮間の 境界文書 群－『江雲隨筆』の魅力語る－
3. 学会等名 朝鮮史研究会大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村井章介
2. 発表標題 商人の如き所存－南北朝内乱の理念と現実－
3. 学会等名 愛知学院大学特別講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒木裕行
2. 発表標題 幕藩間交渉における非制度的関係の位置づけ
3. 学会等名 歴史学研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎原雅治
2. 発表標題 文禄5 年豊後地震関係史料の再検討
3. 学会等名 歴史地震研究会大分大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榎原 雅治
2. 発表標題 地震史料の収集と地震研究への貢献
3. 学会等名 第6回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議（中国社会科学院近代史研究所）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須田牧子
2. 発表標題 『倭寇図巻』再考
3. 学会等名 真贋之間－文献史学与美術史学的対話（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須田 牧子
2. 発表標題 日本所在明国兵部箭付原本について
3. 学会等名 第6回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議（中国社会科学院近代史研究所）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須田牧子
2. 発表標題 遣明使節と西湖
3. 学会等名 西湖をめぐる美術と文化（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須田牧子
2. 発表標題 豊臣秀吉冊封に伴う陪臣への授職について
3. 学会等名 越境する東アジア：16世紀後半から17世紀前半を中心に（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 須田牧子
2. 発表標題 遣明船の終焉と「倭寇図巻」の世界
3. 学会等名 アジアの海を渡る：16・17世紀の渡海者（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深澤 秋人
2. 発表標題 尚家文書の全体像と現状 東京尚家邸の目録と史料群の伝来
3. 学会等名 第6回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議（中国社会科学院近代史研究所）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村井 章介
2. 発表標題 アジアのなかの種子島
3. 学会等名 名桜大学総合研究所・西之表市主催歴史シンポジウム「種子島と東アジア海域」基調講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村井 章介
2. 発表標題 伊達家の「塵芥集」に読む戦国社会
3. 学会等名 福島大学行政社会学会学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村井 章介
2. 発表標題 『豊臣秀吉朝鮮侵略関係史料集成』の紹介と評価
3. 学会等名 北島万次さんを偲ぶ会（共立女子大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村井 章介
2. 発表標題 日中仏教文化の交流 中世の禅宗を中心に
3. 学会等名 国史跡首羅山遺跡シンポジウム「首羅山遺跡からみる中世日本と東アジア」基調講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村井 章介
2. 発表標題 17世紀初頭、対馬による烏銃と高麗人参の密貿易
3. 学会等名 都城島津邸特別展「鉄砲伝来と薩摩筒」記念講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村井 章介
2. 発表標題 安達泰盛と北条得宗 「霜月騒動」をどうみるか
3. 学会等名 特別展「安達一族と鎌倉幕府」特別講演（神奈川県立金沢文庫）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村井 章介
2. 発表標題 総括コメント
3. 学会等名 中世学研究会第2回シンポジウム「琉球の中世」（東京大学文学部）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村井 章介
2. 発表標題 秀吉の三國割構想と「女の領域」
3. 学会等名 立正史学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木 和憲
2. 発表標題 「壬辰戦争」の講和交渉
3. 学会等名 第59回SGRAフォーラム・第3回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性「17世紀東アジアの国際関係 戦乱から安定へ」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木 和憲
2. 発表標題 和解のための努力と結実 己酉約条の締結・施行過程を中心として
3. 学会等名 2018年韓日国際学術会議「壬辰倭乱から朝鮮通信使の道へ 戦争の傷処と治癒、そして和解」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒木 和憲
2. 発表標題 16世紀後半～17世紀前半の東アジア海域と博多・対馬・朝鮮
3. 学会等名 ワークショップ「越境する東アジア」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 深澤 秋人
2. 発表標題 尚家文書 333・334号のなかの鹿児島県庁関係史料
3. 学会等名 琉球沖縄歴史学会 12月例会（於沖縄県立芸術大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 稲田奈津子
2. 発表標題 納棺・埋葬儀礼の復原的考察
3. 学会等名 法史学研究会186回例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲田奈津子
2. 発表標題 日本古代皇后制度的形成与中国礼制
3. 学会等名 世界史中の中華婦女国際学術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 深澤秋人
2. 発表標題 渡唐銀の那覇搬送をめぐる船とヒト
3. 学会等名 琉球・沖縄歴史研究会例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榎原雅治
2. 発表標題 連鎖する開発と災害
3. 学会等名 歴史科学研究協議会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒木和憲
2. 発表標題 中世前期の対馬と貿易陶磁
3. 学会等名 第37回日本貿易陶磁研究会研究集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 荒木和憲
2. 発表標題 大友宗麟と茶の湯文化
3. 学会等名 『戦国大名大友氏の館と権力』第1回共同研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 荒木和憲
2. 発表標題 粉青粉青沙器（粉引）の日本への流入経路に関する一試論
3. 学会等名 第3回高興雲岱里粉青沙器国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲田奈津子
2. 発表標題 金石文からみた日本古代と東アジア
3. 学会等名 文京アカデミア講座「日本史からみる、日本と海外との交流」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 稲田奈津子
2. 発表標題 納后儀礼をめぐる中朝比較研究 臨軒命使・納采を中心に
3. 学会等名 第7回東アジア后位比較史研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 稲田奈津子
2. 発表標題 聖武天皇のお葬式 附・正倉院宝物と献物帳
3. 学会等名 トンボの眼「入門解説・正倉院文書」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 稲田奈津子
2. 発表標題 殯宮の立地と葬地 艇止山遺跡の評価をめぐる
3. 学会等名 新羅史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲田奈津子
2. 発表標題 殯宮の立地と葬地 艇止山遺跡の評価をめぐって
3. 学会等名 第14回東アジア后位比較史研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 村井 章介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 416
3. 書名 古琉球 海洋アジアの輝ける王国	

1. 著者名 村井章介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 384
3. 書名 世界史とつながる日本史 - 紀伊半島からの視座	

1. 著者名 荒木和憲	4. 発行年 2018年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 175
3. 書名 琉球府船と首里・那覇を描いた絵画史料研究(共著)	

1. 著者名 荒木和憲	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 344
3. 書名 戦国大名大友氏の館と権力（共著）	

1. 著者名 荒木和憲	4. 発行年 2018年
2. 出版社 景仁文化社	5. 総ページ数 372
3. 書名 壬辰倭乱から朝鮮通信使の道へ（共著）	

1. 著者名 榎原雅治、清水克行、吉田賢司、大田壮一郎、山田徹、丸山裕之、石原比伊呂、木下昌規、浜口誠至、西島太郎、山田康弘、天野忠幸、神田千里	4. 発行年 2017年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 423
3. 書名 室町幕府将軍列伝	

1. 著者名 荒木裕行	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 260
3. 書名 近世中後期の藩と幕府	

1. 著者名 黒嶋敏、屋良健一郎、須田牧子、村井章介、上里隆史、山田浩世、麻生伸一、豊見山和行、畑山周平	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 360
3. 書名 琉球史科学の船出	

1. 著者名 春田直紀、榎原雅治、佐藤雄基、小川弘和、園部寿樹、似鳥雄一、窪田涼子、池松直樹、熱田順、松本尚之、高橋一樹、湯浅治久、鶴島博和	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 中世地下文書の世界	

1. 著者名 佐藤 信、稲田奈津子、小口雅史、佐々木恵介、三上喜孝、大津透、三谷芳孝、武井紀子、古尾谷知浩、春名宏昭、有富純也、吉松大志、山本祥隆、野尻忠、倉本一宏、佐藤全敏、石田実洋、増淵徹、佐々田悠	4. 発行年 2018年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 512
3. 書名 律令制と古代国家	

1. 著者名 佐藤 信、村井章介、榎原雅治、池田栄史、森達也、木村淳、石橋崇雄、赤司義彦、佐々木蘭貞、水ノ江和同、禰宜田佳男、松田陽、今津節生	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 256
3. 書名 水中遺跡の歴史学	

1. 著者名 荒木和憲	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 289
3. 書名 対馬宗氏の中世史	

1. 著者名 藤田覚編（荒木裕行）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 320（該当ページ80～99）
3. 書名 『幕藩制国家の政治構造』所収「阿部正弘政権の大名政策」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村井 章介 (Murai Shosuke) (30092349)	公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員 (72622)	
研究分担者	荒木 和憲 (Araki Kazunori) (50516276)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授 (62501)	
研究分担者	深澤 秋人 (Fukazawa Akito) (50612785)	沖縄国際大学・総合文化学部・教授 (38001)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	稲田 奈津子 (Inada Natsuko) (60376639)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	須田 牧子 (Suda Makiko) (60431798)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	
研究分担者	小野 将 (Ono Sho) (70272507)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	荒木 裕行 (Araki Hiroyuki) (70431799)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	